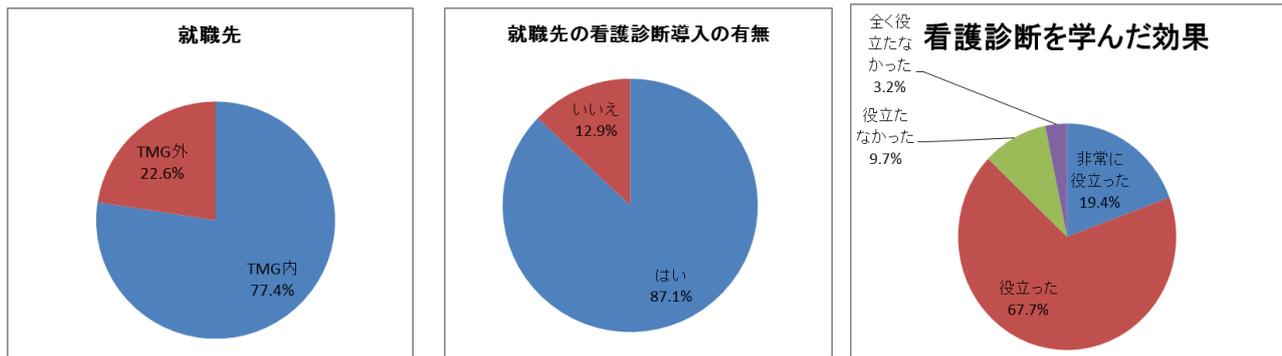


平成 28 年度自己点検・自己評価資料アンケート結果

初年度である平成 28 年度はこのうちの数項目についてデータを収集することになった。今回、卒業生の 1 回生（12 月実施）と卒業前（3 月実施）の 2 回生を対象に自己点検・自己評価資料としてアンケートを実施した。看護診断教育、国家試験対策、卒業後の支援について情報公開で報告する。

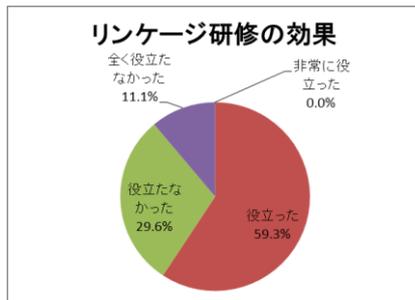
1. 看護診断を使用した看護過程教育の効果

1) 就職先での看護診断の学習の効果（1 回生のみ）



開校前の新卒者調査で、基礎教育で理論を活用した事例展開を数多く実施していたことは、卒業後に「役に立たなかった」という結果を受けて、当校は看護診断教育を取り入れることになった。卒業後に「非常に役に立った」、「役に立った」と感じている卒業生は 87.1%であり、「役に立たなかった」とした 3 人の理由は、就職先が導入していなかったためとしていたため、学習の効果はあったといえる。

2) 卒業前の NNN リンケージ学習（1 回生のみ）

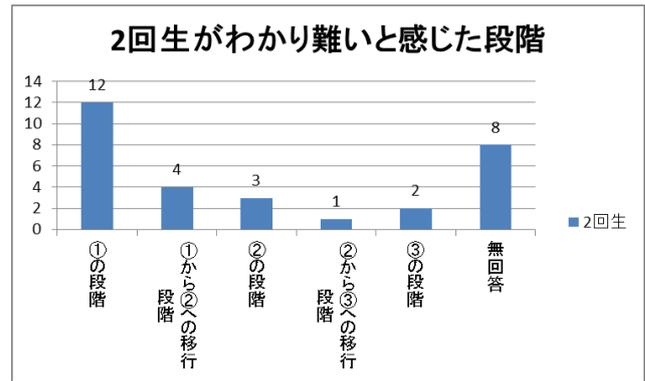
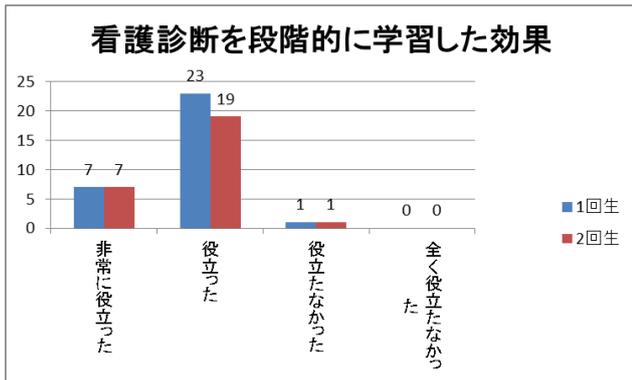


1 回生に対し、卒業前に 1 日だけ NANDA-I と NOC、NIC を使用する方法について講義した。一方的な講義となり、実際使用しての展開ではなかった。そのため理解するまでには至らず、役に立てられなかったと考える。学生はまだ看護の基本を学ぶ段階であるため、具体的な計画立案を教育することにし、リンケージ教育は卒業後教育で学ぶものであるとして、2 回生の卒業前講義は行わなかった。

3) 段階的看護診断学習の効果（1, 2 回生）

- | |
|--|
| ①の段階: 看護過程基礎演習や基礎看護学実習ⅡでNANDA-I 13領域のデータベースを使用 |
| ①から②への移行段階: 基礎看護学実習Ⅱで捉えた看護問題から看護診断を考える個人ワーク |
| ②の段階: 各専門領域の講義で看護診断について理解を深める |
| ②から③への移行段階: 各専門領域の演習で看護過程展開のグループワーク/個人ワーク |
| ③の段階: 各論実習で看護診断を本格使用 |

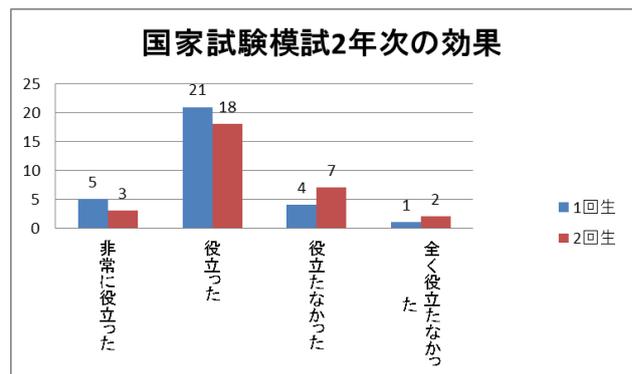
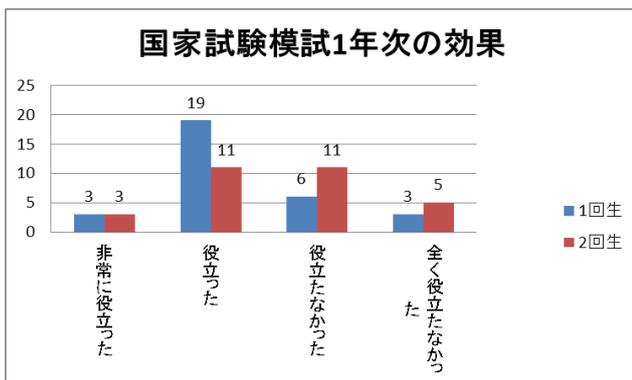
表1 教育段階



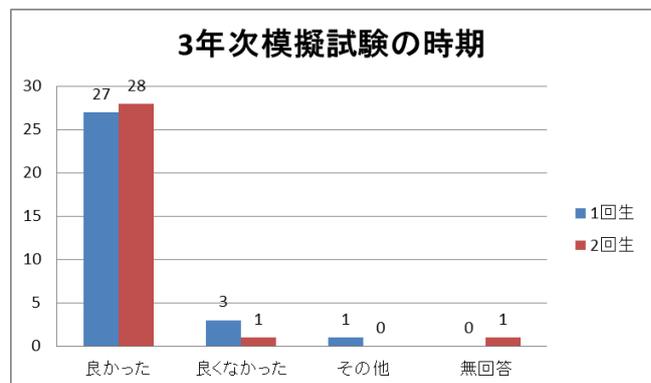
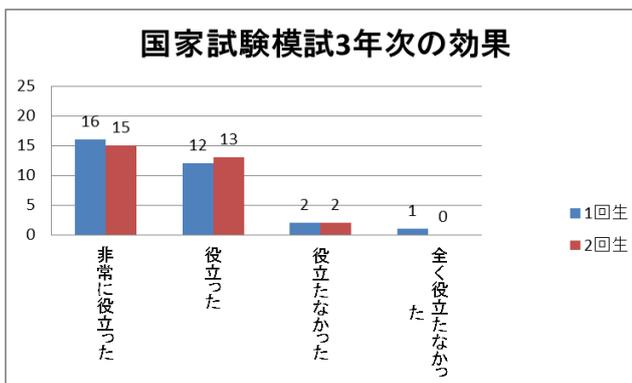
1年次から段階的に看護診断の理解と実習において看護展開を行ってきた。今回の調査の結果から概ね「役立った」との回答であった。つまり、段階的な看護診断を用いた看護過程の教育は就職後の看護実践に効果があったといえる。また、2回生がわかり難かったとした①の段階は、初めて受け持ち患者から情報を得て、看護計画を立案するために領域に沿って分類し、アセスメントをしなければならないため、困難性を強く感じている。しかし、それ以降は困難性を上げている学生が少ないことから、この①段階がスムーズに行くように、事前学習ができるように指導していく必要がある。

2. 看護師国家試験対策の効果

1) 国家試験模擬試験の効果 (1・2回生)

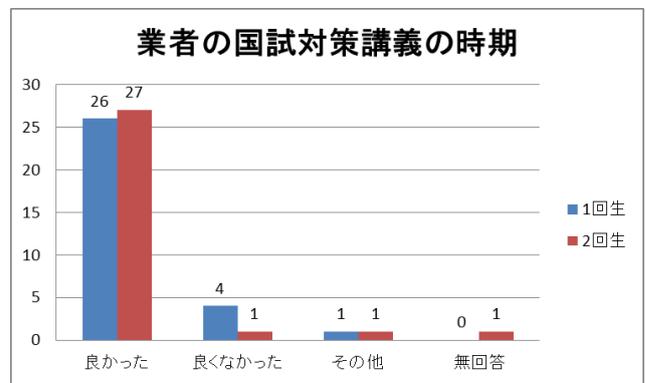
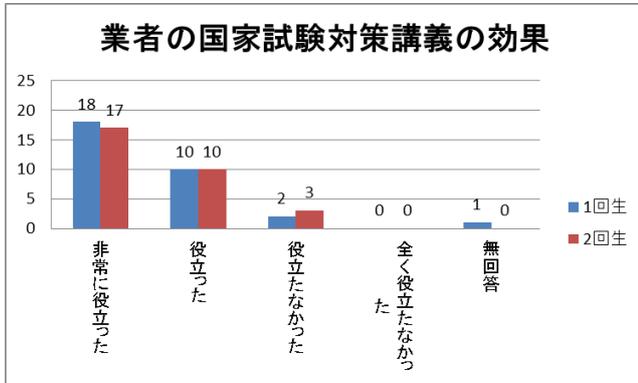


1年次、2年次に行われる低学年模擬試験は、座学が多い1～2年生の学習への意欲向上を目的に実施している。しかし、3年次ほどに国家試験のイメージが付きにくく、「記憶にない」などのコメントから危機感や自己認識にはなっていない。したがって、結果を自己認識につなげるための指導が必要である。自己目標の立て方、自己評価など個別指導するほか、成績低迷者の学習支援に活かせるようにしていく。

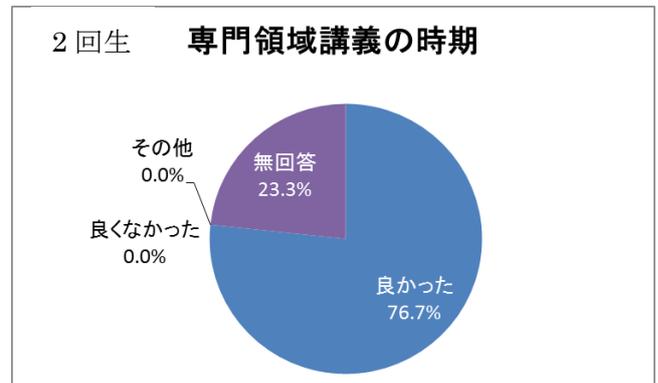
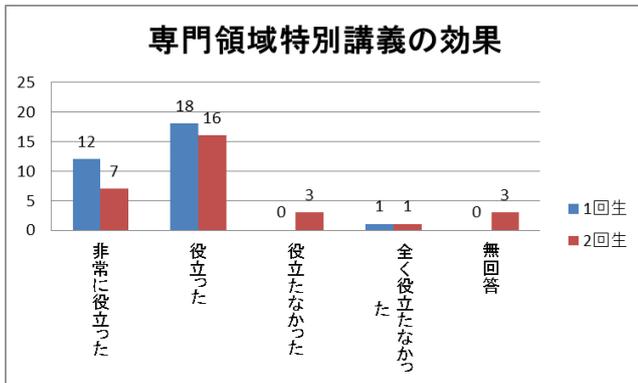


3年次に行う模擬試験は6月、10月、1月の3回実施している。1回生の中には「遅い」と感じている卒業生もいるが、概ね妥当ととらえている。

2) 国家試験対策講義の効果（業者、専門領域担当教員）（1・2回生）

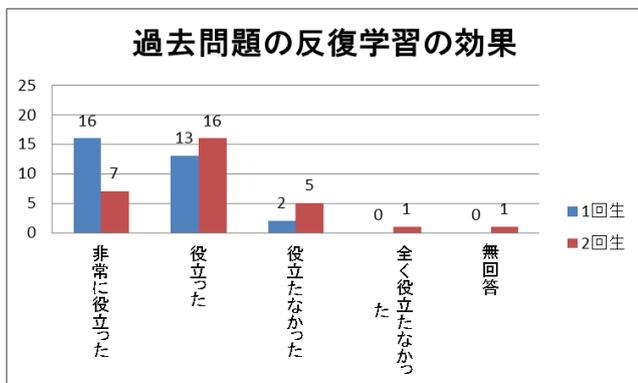


業者による国家試験対策講義を行っている。1、2回生とも概ね役に立ったと感じており、時期についても良かったといえる。



専門領域の教員が実施した特別講義は、1回生は96.8%、2回生は76.7%が役立ったと感じている。2回生は12月から1月下旬まで実施している。まだ学習が進んでいない学生には効果的であるが、学習の進んでいる学生からは過去問の解説だけでは意味がないなどの意見があり、講義内容、方法の検討が必要である。

3) 国家試験過去問題の反復学習の効果（1・2回生）



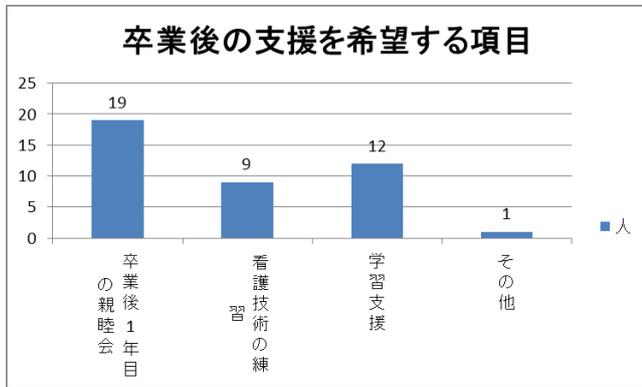
2回生自由記述内容

過去問題は自宅で学習していたため必要なかった
印刷してくれるので本の購入はあまり必要なかった
106回は過去問では間に合わなかった
自分で収集した以上に多くのものをできたので良かった
反射で答えてしまう
過去問を反復だけでなく、広げて勉強して良かった

過去問題の反復は、国家試験対策委員会で模擬試験や雑誌・書籍から抽出した問題を数多く準備し、学生の希望に合わせて実施している。1回生93.5%、2回生76.7%が役立ったと回答しており、効果はあったと評価できる。2回生の自由記述で106回の出題方法が過去問と違っていたため、役立たなかった

たと回答した学生が 1 回生より多くなっている。過去問を機械的に回答するだけでは、出題形式が違くと答えられない状態になる。なぜその回答になるのかの理由や苦手な箇所を確認していくという、理解を深める学習方法を指導していく必要がある。

3. 卒業後の支援に対する要望（1 回生のみ）



当校は新設校のため、卒業後の支援についての実績がない。そのため今回調査を行った。

結果、「卒業 1 年後の親睦会」が 12 名と多く、次いで「学習支援」、「看護技術の練習」となっている。同窓会がまだ活動できていないこともあり、TMG 内・外との交流の場がない。1 年目は職場に慣れない、業務に慣れないなどにより精神的に負担感が強く、早期離職に繋がってしまう。そのため、新人看護師の早期離職の軽減のためにも学校で支援

をすることは重要である。また学習支援、看護技術の練習支援については、病院との卒後教育との連携も視野に入れて、検討する必要がある。

まとめ

1. 基礎教育で看護診断を教育することは卒業後の臨床に役立っており、看護診断教育を段階的に進めることで、学生の理解に役立っている。
2. 概ね、実施したことに対し学生の満足度は高いが、低学年の学習方法、3 年次の専門領域講義などの方法の検討が必要である
3. 卒業後の支援として、親睦会、学習支援、技術練習を希望しているため、就職施設と連携をとり支援体制を整えていく必要がある